



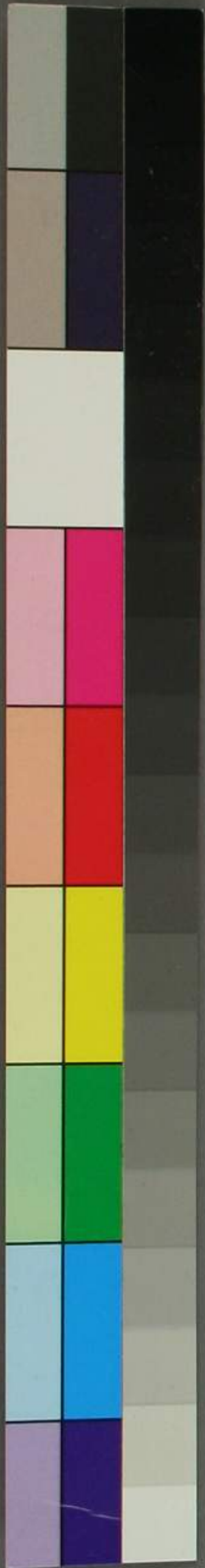
五編上

特別
~13
4271
9



五編下

特別
~13
4271
10





かなハ大傳

春水作
國芳画

五編上

特別
~ 13
4271
9



假名讀

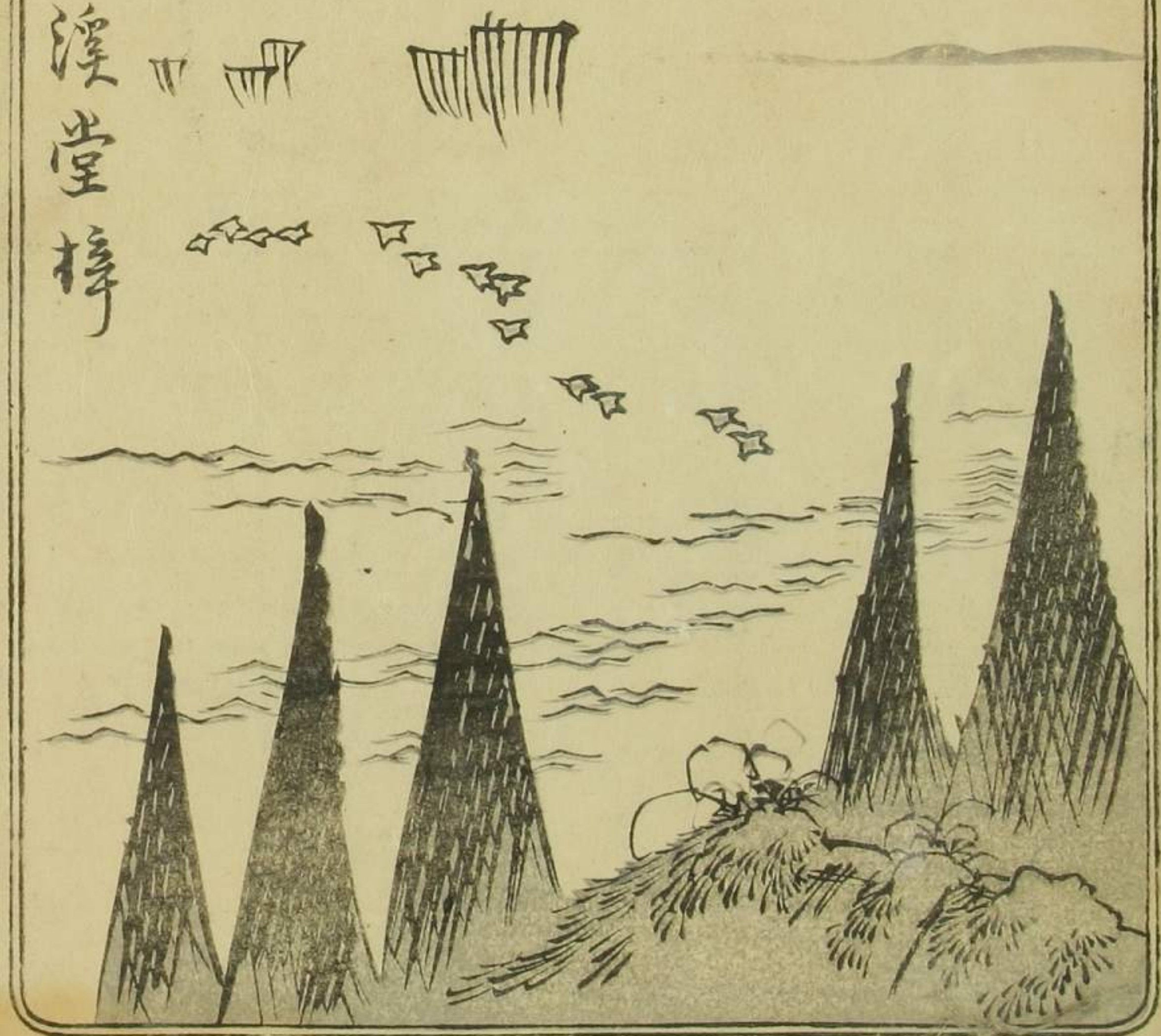
八犬傳

五編上

春水作

國芳画

文溪堂梓



作者々々となくけんさうし言ふてかきこむことあや手羽白小
 他の作意を見做らて終る假名讀八犬傳の原本の
 尺の清書るまう推の実筆の拾ひがたもはのりく
 五帙小右やう左やう草稿の坂小車のおき後とも油断
 をとせぬ書房の催促基より作のいろはゆか自ひも
 艶もあらぬのうらま習兒の戻る八房の梅を断まを
 明白小條目つちぐぬ觀善徳悪者宜その氣を以境
 おろト筆はさしたを故つて記は

嘉永二歳己酉孟春

爲永春水



のぬまきまうらた
犬山道策
グ妻
黒白

よ
お
能
釘
や

非は是ぞ阿



寂寞道人角柳



杉
小
打
ツ

のぬまきまうらた
犬山道策

妻後





礼智の
孝悌の
忠信の

のそらひーあやまら
のころ六つの子あまら
のくろくろまのあまら
のうらまのうらまら

あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ

のちあつちんハツ
あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ



八代傳五

あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ

あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ

あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ
あつちんハツのハツ

額

國芳画



春水作

つぎに...
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

近世説美少年録十冊

曲亭馬琴作
 溪齋英泉画

美少年録次編
 玉石童子訓

初編、六編迄
 曲亭馬琴作
 柴七編迄
 歌川豊国画

商人用文章

中形本 一冊

日用重法 萬代節用集

中本 一冊

梅の雪

一包代
 七十二孔

花檮

はかやの
 七毛り水
 びのどろ
 びくり入
 六十四孔

玉艶紙

一名化粧がみ
 代四十八孔

かんのかきり

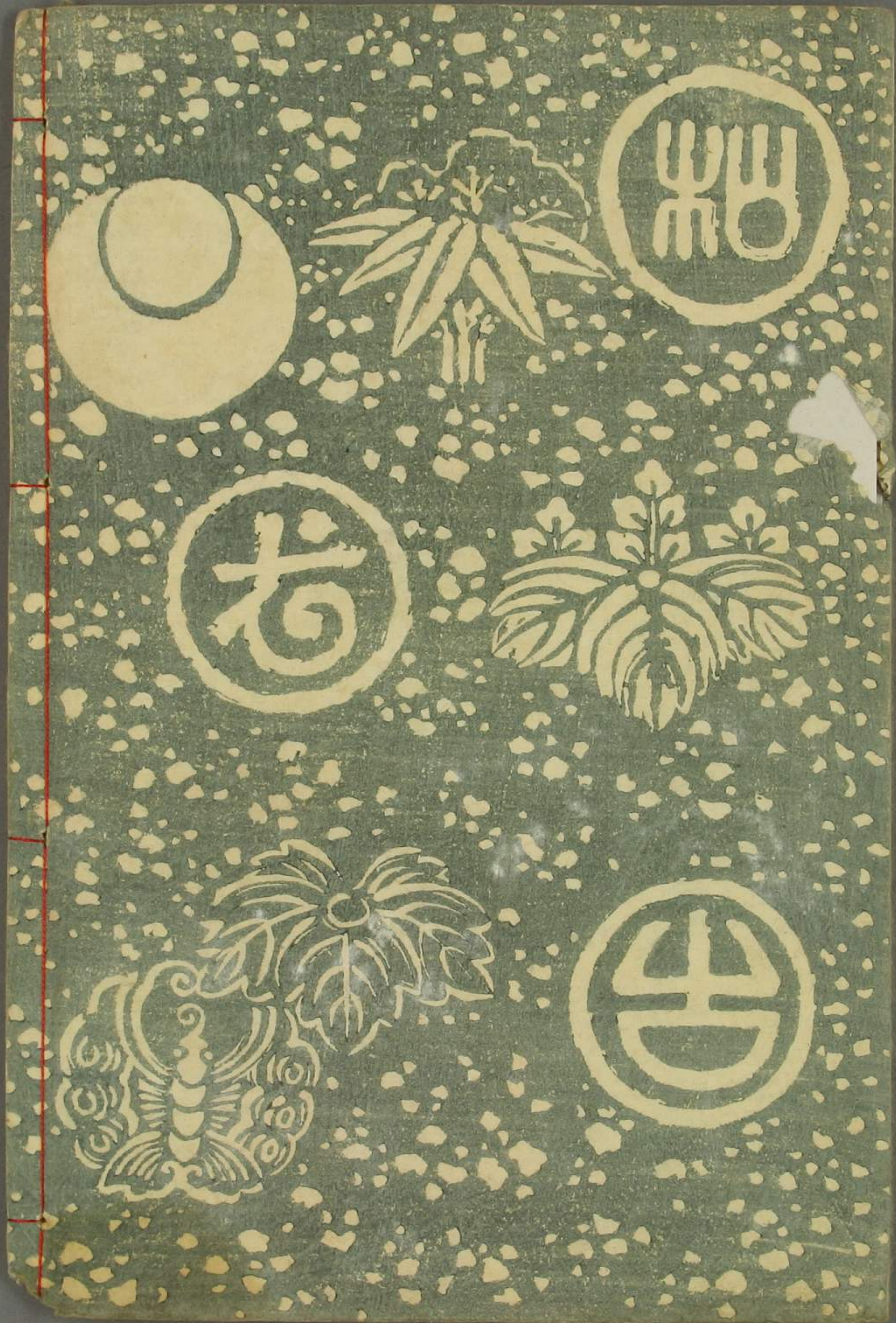
大人小見あふ
 中用兼あり



文溪堂

大傳馬町貳丁目

丁子屋平兵衛版





五編下

特別
~13
4271
10





伝名徳

文溪堂

八丈傳

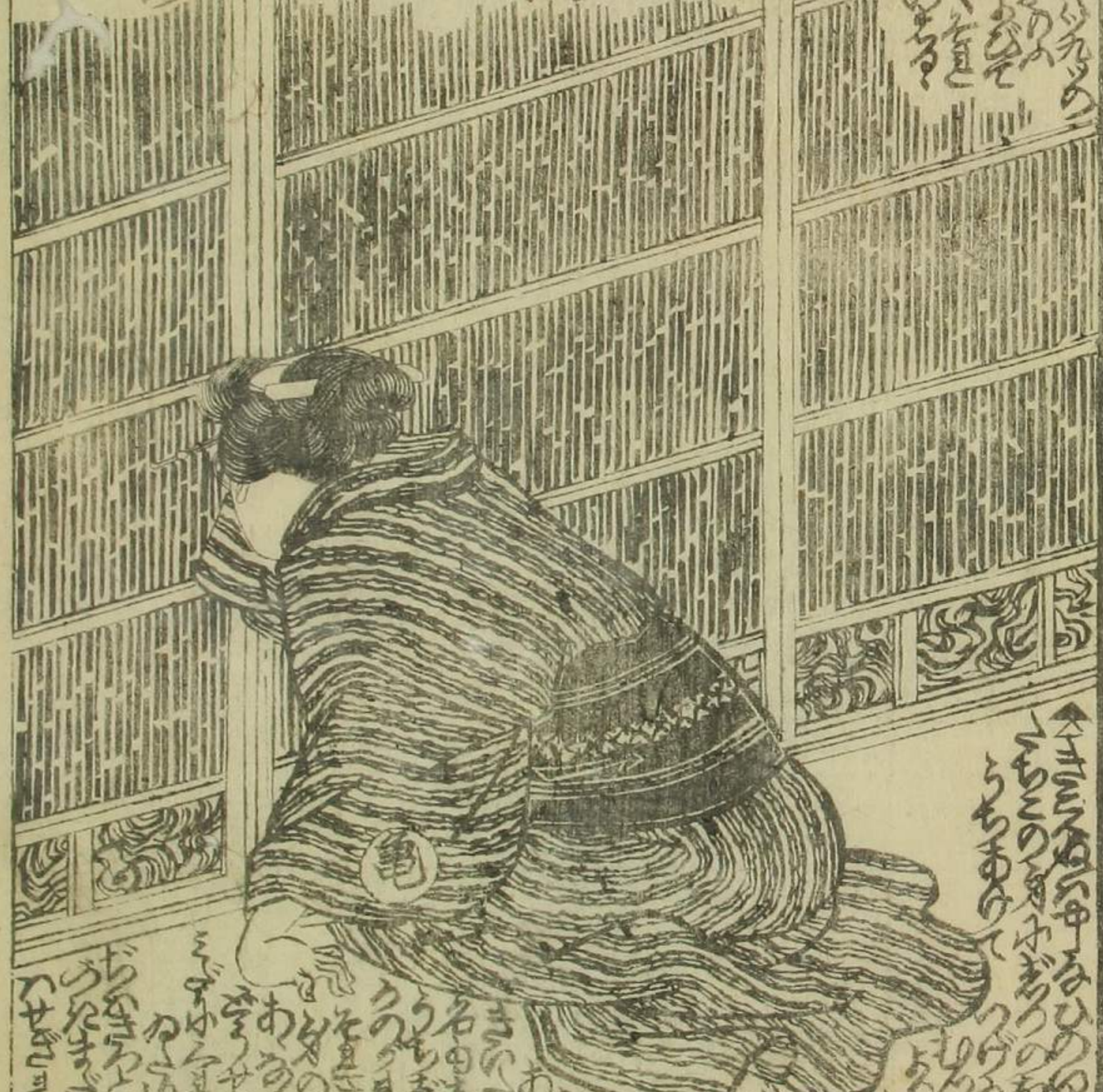
五編下

喜多作

國芳畫



上ノ由テ... 中ノ由テ... 下ノ由テ...



下ノ由テ... 中ノ由テ... 上ノ由テ...

三の巻の... 四の巻の... 五の巻の... 六の巻の... 七の巻の... 八の巻の... 九の巻の... 十の巻の...



五の巻の... 六の巻の... 七の巻の... 八の巻の... 九の巻の... 十の巻の...



十一の巻の... 十二の巻の... 十三の巻の... 十四の巻の... 十五の巻の... 十六の巻の... 十七の巻の... 十八の巻の... 十九の巻の... 二十の巻の...

二十一の巻の... 二十二の巻の... 二十三の巻の... 二十四の巻の... 二十五の巻の... 二十六の巻の... 二十七の巻の... 二十八の巻の... 二十九の巻の... 三十の巻の...



この世の事は五つに分かたれど
そのうち三つは人の業にて
残り二つは天の業にて
人の業は五つに分かたれど
そのうち二つは徳にて
残り三つは業にて
天の業は二つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて

おのれは五つに分かたれど
そのうち三つは徳にて
残り二つは業にて
人の業は二つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて
天の業は一つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて



この世の事は五つに分かたれど
そのうち三つは人の業にて
残り二つは天の業にて
人の業は五つに分かたれど
そのうち二つは徳にて
残り三つは業にて
天の業は二つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて

おのれは五つに分かたれど
そのうち三つは徳にて
残り二つは業にて
人の業は二つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて
天の業は一つに分かたれど
そのうち一つは徳にて
残り一つは業にて



無
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

大
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



鳥永春水一作勇齋國芳画

梅乃雪

酒毒を解毒
昔を...
世間...
夏...
の...
帰人...
あ...
洗...
あ...

花梅

花梅
世間...
夏...
の...
帰人...
あ...
洗...
あ...

玉艶丸

玉艶丸
あ...
洗...
あ...

江戸賣弘所

大傳馬町

文漢堂丁子屋平兵衛

